

海外安全対策情報（2023 年 10 月～12 月：コロンビア）

1 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（1）全般

2023 年 11 月末の統計によれば、殺人事件は前年対比 1 %減少しているが、強盗・窃盗事件は 7%増加し、誘拐事件は 63%も増加している。また、みかじめ料の要求のような恐喝事件、偽の自動車売買情報や求人広告でおびき出し、その家族に金銭を要求する事件も非常に増加している。さらに、SNS を通じて知り合いになり、飲食店や自宅等で飲食をする機会に乗じて、飲食物に睡眠薬を混入させて意識を失わせる睡眠薬強盗被害や、警察官に成りすまして職務質問を装い金品をだまし取る、道路に「まきびし」をまいてわざと運転中の車両のタイヤをパンクさせ高額な修理業者を紹介する、いわゆる「ぼったくり」行為等、様々な手口の犯罪も引き続き発生している。

誘拐事件の被害者はコロンビア人の富裕層であることが多いが、都市部で外国人が被害者となる短時間強盗（タクシー等で目的地以外の場所に連れて行き金品を強取する手口）も発生している。さらに都市部では、前述のとおり SNS や出会い系アプリを通じて知り合った異性から、気づかぬうちに睡眠薬で眠らされ金品を盗まれる外国人や、違法薬物を過剰摂取して死亡する外国人が増加しているため、自身の行動に十分に注意する必要がある。

具体的には、人気のない道路は日中でも注意する、身の回りの物から目を離さない、怪しい人物に狙われていないか注意する、乗車中に信号等で一時停止した場合でも不審者が付近にいないか確認する、むやみに車の窓を開けない（物乞い等に施しを与える場合にも直接手渡さない）、飲食店で出会った人物やアプリで知り合った人物を安易に信用しない等、常に警戒を怠らない心構えが必要である。万が一、強盗やひったくりに遭った場合は、生命を第一に考え、絶対に抵抗せず、盗まれた物を取り返そうとはいけない。

（2）邦人犯罪被害事案

- ・ 11 月上旬、ボゴタ市内の繁華街で在留邦人が男 2 名に背後から羽交い締めにされ、何らかの薬物を飲まされて眠らされ、気づいた時には時計、携帯電話、財布、クレジットカード等がなくなっていた。

2 テロ・爆弾事件発生状況・関連報道

2023 年 11 月末の統計によれば、テロ行為等は前年対比 85%減少したが、これは、前年の数値が極端に多かった（武装ストライキ等により極端にテロ行為等が多かった）ため減少しているかのように見えるものであり、従来どおり警戒する必要がある。

ペトロ大統領の呼びかけにより、多くのゲリラ組織や武装犯罪組織が和平交渉に応じる姿勢を見せているが、これら組織の活動が活発な地域では警察署や軍の基地

等、治安部隊に対する攻撃は相変わらず発生していることから、こういった場所に不用意に近づかないことが大切である。また、最近、恐喝事件に絡み、金銭の要求に応じない被害者を脅すため爆発物を投てきする等の行為も見られる。

なお、近年の主なテロ・爆弾事件としては、ボゴタ市では2017年6月、ショッピングセンター「アンディーノ」においてフランス人女性を含む3名が死亡する無差別テロ事件が発生、2019年1月、市内の警察学校内で学生22名が死亡するELNによる自動車爆弾が発生しているほか、上述の2022年3月26日のボゴタ市南部のシウダー・ボリーバルの交番（CAI）の爆弾テロでは、付近にいた児童2名が死亡、勤務中の警察官1名を含む25名が負傷、交番付近の家屋等約50戸に物的被害が生じており、今後もテロへの警戒は必要である。

2023年

- ・ 10月9日 サンタンデル県ホセ・デル・グアビアレ市で、農村部の道路や警察署直近に仕掛けられた爆弾が爆発。
- ・ 11月16日 アンティオキア県アノリ市で、陸軍の重機に仕掛けられていた爆発物が爆発、操作していた2名の兵士が死亡。
- ・ 11月20日 アラウカ県タメ市で、検問所で車爆弾が爆発し、付近にいた市民2名が死亡、兵士6名を含む18名が負傷。
- ・ 12月1日 バジェ・デル・カウカ県カリマ市で民家に仕掛けられた爆発物が爆発、住民1名が死亡、1名が負傷。
- ・ 12月11日 クンディナマルカ県シパケ市で、有料道路の料金所に爆発物が投てきされ、2名が負傷。
- ・ 12月18日 メタ県ビジャビセンシオ市有料道路の料金所に爆発物の投てき、負傷者無し。
- ・ 12月16日 グアヒラ県ウリビア市で、鉱山用鉄道に対する爆破テロが発生、操業に支障。

3 誘拐・脅迫事件発生状況

2023年11月末の統計によれば、恐喝・脅迫事件は前年対比8%増加している。10月末に行われた統一地方選挙の立候補者に対する脅迫（本人への殺害予告や家族への加害予告など）や選挙終了後の当選者に対する脅迫が急増し、実際に家族が誘拐または殺害されたケースもある。恐喝事件は身に覚えのない連絡先から脅しのメールやメッセージが届き金品を脅し取るケースが散見されることから、知らない者からのコンタクトには慎重に対応することや、安易に脅しに乗らず、必要に応じて警察や検察に相談することが必要である。

都市部では犯罪組織による偽装タクシーを使用した短時間誘拐の犯行もあることから、タクシーアプリや無線タクシーを利用し、流しのタクシーは利用しない等の注意が必要である。